

<2月・6月議会一般質問／予算決算特別委員会>

今回は2月、6月議会、及び、2月議会での予算決算特別委員会での質問の内、主なものを報告いたします。今回も空中戦(イメージや印象に基づく質問)にならぬよう、しっかりとした調査データに基づく質問を心掛けました。(★が私の質問、☆が知事及び理事者の答弁、□内が解説です。)



★ 越前市において大火があり、10軒の方が被災したという状況である。ここは商店街であって、再整備のためにいろいろな計画を立て、さあ、取りまとめようかというやさきのことであった。そういった再整備や復興に対する支援について所見を伺う。

☆ 知事: 突然の災害であるので、もちろん被災された方々の生活の再建、それから、これを機に、武生の旧市街のまちづくりをさらに新しい形で行う契機とし、課題を挙げる必要があると思う。またいろいろ要請もいただき、しっかりと進めていきたいと思う。

この質問は事前の通告なしに行ったのですが、知事からは前向きな答弁を頂いたと感じています。やはり、商店街としてどのように生まれ変わるか、既存の計画を含め、一致団結したコンセンサスが取れた形での支援要請と復興を行う必要があると考えています。



★ 木造住宅の耐震化推進事業において予算の額、補助額、対象者への対応など、総合的に見ると、耐震化率の目標90%の達成というのは疑問ではないか。

☆ 知事・土木部長: 福井県を含む37都道府県が国としての目標である9割を目標として設定をしている。寝室、居間の部分改修の助成など、さまざまな工夫をしながら、所有者が行う耐震改修を後押しすることが重要だと考える。住宅の耐震改修支援については国の補助制度を活用している。私有財産への公的資金の投入の観点から、補助率は対象事業費の23%、上限額は80万円と定められている。来年度は、国が、新たに戸別訪問を実施する市町において、補助上限額に30万円上乗せする制度を創設したのを受け、本県においても、上限額の引き上げを行う予算を今回計上しているところ。来年度の予算額2,200万円は、耐震改修補助80戸分の県費負担を計上している。市町の申請状況が当初予算を上回る場合には、補正予算で対応したいと考えている。

国の計画の目標数値をそのまま引用して耐震化率を9割に設定していること、そして予算額が補正を組まれたとしてもこの9割の達成のための額としては小さすぎるなど、大きな課題を抱えた事業だと考えています。震災が各地でみられる中、耐震化診断とその後の工事への県の誘導は非常に重要なテーマであると考えています。



<県政メモ15 ～県議会議員の定数について～>

先日、あたかも決定のように報道された越前市・今立郡・南条郡選挙区における定数(現在5)変更についてですが、以下の理由により現状維持のままという形で決着がつけました。

- 同選挙区は3つの自治体から構成されており地域の代表となる議員は相当数の確保が必要であること。
- 今回の変更(福井+1／越前市・今立郡・南条郡-1)を実施したところで最大格差となる大野市(定数一人当たり人口16,555)とあわら市(同28,729)の格差1.74になんら影響を与えないこと。
- 全県で見ても最大格差は最高裁の判決で基準となる2.0を下回っていること。

我々は最大会派として各派代表者会議に定数の変更を提案したわけではなく、変更を議論する協議会の立ち上げをするかどうかの検討を各派に依頼したに過ぎず、協議会の立ち上げすら必要なしとの結論が県議会の総意としてなされたわけです。ご心配頂いた皆様、ありがとうございました。

宮本たかしダイアリー



産業常任委員会にて



人口減少対策特別委員会にて



小泉進次郎氏と高木先生、富田JA組合長とともに



新装県営体育館ボクシングリングにて



南地区体育祭 きくりんと



東地区の方に頂いたお写真



南地区夏季操法訓練、文京2丁目自警消防隊と



市民体育祭体操競技 優勝の南地区の方々と